

2010年度第2回中等教育機関日本語教師研修会：報告

今回は、緒方智幸先生(東海大学文学院日本語文学系講師)をお招きし、「高校での教室活動あれこれ」をテーマに研修会を行いました。

日 時：(台北会場) 2010年7月24日(土) 14:00~17:00
(高雄会場) 2010年7月25日(日) 14:00~17:00

参加者：台湾の中等教育機関日本語教育関係者 (台北) 15名 (高雄) 16名

まず初めに、過去にNHKで放送された、小学生を漢字好きにするための教室活動の様子を伝える番組が、好きになれば何でも積極的に取り組むようになることの例として紹介され、日本語教育においても、学習者を楽しませ、学習対象を好きにさせることが教育・学習を進展させる基本であることが確認されました。

引き続き、その基本を踏まえて緒方先生がこれまでに考案、実践されてきた多くの教室活動の中から、以下の7つの実践報告をいただきました。

- ①大人数クラスで行う短冊交換問答練習
- ②数字の練習
- ③繰り返し練習としてのビンゴゲーム
- ④インタビュー形式の練習
- ⑤ジェスチャーをつけた自動詞・他動詞の練習
- ⑥短劇を通しての会話練習
- ⑦動詞ポンジャラゲーム

①は、Audio-Lingual Method の考えに基づく繰り返し練習の1つで、いろいろな発想をまじえて飽きを感じさせず、おしゃべり感覚で50人一斉に行う短冊交換問答練習。②は、Silent Way の考えに基づき、生徒に自分で作り上げる喜びを味わわせながら行う、具体的な大きな数字を用いた数字練習。③は、既成のビンゴゲームの問題点を指摘しつつ、それを改善した繰り返し練習としてのビンゴゲーム。④は、いくつかの文型を総合的に練習させるためのインタビュー形式の練習。⑤は、Total Physical Response の考えに基づき、言葉を動作に置き換え、ジェスチャーをつけて行う自動詞・他動詞の練習。⑥は、Structuro-Global Audio-Visual Method の考えに基づき、授業現場をできるだけ現実の言語活動に近い状況に置き、ストーリー性のある会話練習として行う短劇練習。⑦は、マージャンのルールを応用して動詞カードや名詞カードの組み合わせを作らせるゲーム。ということで、このうちのいくつかは参加者も実際にやってみて、そのやり方が確認されました。

次に、参加者全員に各自の教室活動の実践例について、どんなタイプのクラスでどんなレベルの学生を対象に行ったかも含め、1人ずつご報告いただきました。高中(普通高校)の第2外国語クラスやクラブ活動として教えている先生方も、高職(職業高校)の日本語学科で教えている先生方も、限られた時間でいかに学生に興味を持たせ、覚えさせるかに四苦八苦している様子と日々の努力が伝わるご報告が多く、また、そのような経験を踏まえたご意見や注意事項、そして失敗例の改善法に関する質問等が交わされ、大変に有意義な相互報告と意見交換が行われました。

以上のように、今回は、非常に多くの有意義な意見交換や情報共有が行われた研修会となり、終了後のアンケートでは「色々学習用のヒントをいただきました」、「様々な教室活動を教えてもらったので、これからの授業でやってみます」、「現場教師の実経験や意見の分ち合いというところが非常に良かった」、「いろいろな先生方から経験を聞かせていただいて、今後役に立つと思います」など、多くの好意的な感想の他、「教室活動は一部の生徒が最初から参加しないことが悩みです」、「緒方先生の実際の授業活動の映像（1コマの内容）を見たいです」、「研修会の人数はこのくらいが非常に効果的だと思います」など、今後の研修会の企画・立案に参考となる意見も多く寄せられました。

緒方智幸先生



研修会の様子①



研修会の様子②

